

施設計画の目標（案）
～「みんなの学校」を目指して～

新しい学校づくりの基本コンセプトである「みんなの学校」の下、検討部会や考える会などを通じたさまざまな想いや意見を受けとめ、みんなの学校を具体化する学校施設の計画目標を定める。

○児童・生徒・町民が気持ちの良く登下校できるアプローチ空間をつくる

- ・季節の移り変わりや安平町の歴史・文化を感じることでできるアプローチとする。
- ・冬季の除雪など、気候風土を踏まえた管理のしやすいアプローチとする。
- ・町民が気軽に訪れることができる開かれたアプローチ空間とする。

○さまざまな活動がのびのびとできる屋外環境をつくる

- ・成長段階の異なる児童生徒が、安全に安心して楽しく遊び、スポーツに親しめる校庭とする。
- ・丘や小川、森などの立地の魅力を生かした体験型の教育活動ができるようにする。
- ・スケート場など周辺公共施設と連携し、安平町ならではのスポーツや遊びに取り組めるようにする。

○児童生徒や町民の誇りとなる校舎をつくる

- ・地域のシンボルとして、子どもたちや町民の誇りとなる校舎のデザインとする。
- ・道産木材を使用し、子どもたちや町民を温かく包み込む校舎とする。
- ・居心地の良い居場所が見つけられる校舎とする。
- ・自分たちの居場所として、児童生徒が自ら環境づくりに関わることができる空間の素地を整える。

○気候風土を踏まえ、すべての人にとって使いやすい校舎をつくる

- ・厳しい自然環境から利用者を守るシェルターとなり、快適に過ごせる校舎とする。
- ・性別や体格差に配慮し、障がい者、高齢者など、さまざまな利用者が負担なく使用できるバリアフリー環境を整える。
- ・防犯対策を整え、児童生徒や町民が安心して過ごせる校舎とする。

○自ら学びたくなる校舎・教室をつくる

- ・主体的・対話的な教育活動や、クラスや学年、学校、国を超えた交流活動に取り組めるようにする。
- ・AIやインターネットなどの新しい技術を活かした教育方法に取り組めるようにする。
- ・学級増にも柔軟に対応できる教室まわりの計画とする。
- ・様々な困難を抱えた児童生徒の学びと生活を保障する教室まわりの計画とする。
- ・教科担任制となる中学校では、教科の魅力を活かして学習への興味・関心を高めながら教科学習の充実を図ることができる教科センター方式の採用を検討する。

○小規模校の課題を克服し、充実した活動ができる実験・実習の場をつくる

- ・特別教室にオープンスペースを組み合わせたり、関連付けて配置したりすることで、教室単体では行えない活動を生み出せるようにする。
- ・小学校と中学校や学校と地域で特別教室を共用することにより、高機能化・多機能化を図るとともに

に、利用率向上を図る。

- ・児童生徒が本物に触れることのできる本格的な設えとする。

○児童生徒と町民が共に図書に親しみ、交流できる学校図書館をつくる

- ・存分に本やインターネット(資料)に親しめる居心地の良い図書館とする。
- ・知的好奇心を高め、国内外のさまざまな知識、情報を得られる図書館とする。
- ・児童生徒と町民が共に資料に親しみながら、自然に交流し、ともに学び合える図書館とする。

○スポーツを中心に発表や集会活動に適した体育館をつくる

- ・様々なスポーツに親しむことができる体育館とする。
- ・安平町のスポーツ文化を体験し学べる体育館・校庭とする。
- ・行事や式典、学習成果の発表活動や芸術文化の鑑賞などに適した講堂機能を確保する。

○教職員や地域の支援者との連携・協働を支援する校務センターをつくる

- ・ICTを活用し、校務が効率的に行える執務作業環境とする。
- ・教職員同士の連携・協働を促進するためのスペースや環境を確保する。
- ・地域や遠隔地の学校や人材との協働などを促進する環境を確保する。

○心身の発達段階に配慮した健康教育の拠点となる保健室をつくる

- ・児童生徒の発達段階に応じ、安心して休める保健室とする。
- ・児童生徒を温かく迎える相談スペースを用意する。
- ・校務センターや校庭、体育館、各教室から訪れやすく、落ち着ける場所に配置する。

○ふるさと教育の場として、地域に開かれた学校をつくる

- ・安平町の歴史文化財を活かし、ふるさと教育に資する施設環境を整える。
- ・保護者・PTA、地域住民、ボランティアと学校の連携を支援する環境づくりを行う。
- ・日常にお互いの活動の様子が見えたり、活動場所を共有したり、交流給食・食育活動を行ったりして、児童生徒と町民の自然な交流が育まれるようにする。

○避難拠点として、学校と町民の安全・安心を支える校舎をつくる

- ・季節や時間帯に関わらず発生する災害に対し、避難拠点として有効利用できるようにする。
- ・主たる避難場所・避難所となる体育館を中心として、避難所機能を高める付帯施設を確保する。
- ・避難所機能を日常的な地域活動の場と重ねることで、施設の使用方法を共有するとともに適切な維持管理を行い、緊急時の利便性を確保する。

○環境の変化に柔軟に対応し、永く愛され大切に使い続けられる「サステイナブル・スクール」をつくる

- ・環境負荷を低減し、自然との共生を目指す学校施設を整備する
- ・設備等の更新が行いやすく、将来の用途転用にも対応しやすいフレキシビリティを確保する。
- ・卓越風などの立地の自然環境を活かし、省エネルギーな学校施設とする。